



図90 「の」状のペンダント 新潟市
指定文化財

コラム3 「の」状のペンダント

南赤坂遺跡（五八ページ）からは、縄文時代前期末から中期初頭の遺物もたくさん出土した。図はその時期の、「の」字状の形をしたペンダント（装身具）である。幅三・七センチメートル、厚さ三ミリメートルほどの蛇紋岩製で、上部に紐を通すための小さな穴がある。よく研磨されて美しく、現在でも使えそうである。蛇紋岩製のこのペンダントは、全国で二〇例ほどが発見されている。北は青森県から南は岡山県に及ぶが、大半は良質な蛇紋岩の産地である糸魚川を中心とする半径一五〇キロメートル圏内で見つかっている。

市域では弥彦・角田山麓で三点出土している。このような分布の仕方は、石材の原産地の糸魚川付近で作られた製品が列島各地に流通していたことや、縄文人たちが広範囲にわたって活動していたことを示している。

特徴的な「の」字の形については、南海産のイモガイを輪切りにした形をまねたものとする説があるが、はっきりしない。この時期に作られた土器にも、「の」字状の文様がしばしば見られるので、縄文人たちの何らかの思いが込められた特別な形なのかもしれない。